

不正対策の制度設計とこれを支える 不正対応活動の在り方

～企業風土型など不正の分析と対応策および

監査、調査、内部統制等の活動の検討～

「内部監査実務マスター・コース」〔第4回開催分（全9会合）〕

●日時● 2018年12月13日（木）14:00～17:00

●会場● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』

●講師● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

20年近く会計監査に従事した大手監査法人では監査アプローチの研修・普及活動や公認会計士協会本部の活動（国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員他）にも専念。続く10余年は、内部監査、内部統制、リスクマネジメント、不正調査等に特化し、アンダーセン消滅後はPwC（中央青山監査法人）で活動した後、J-SOXの制度化を前に復帰した新日本監査法人（E&Y）で内部統制支援本部統括部長、ビジネスリスクサービス部長、FIDS（不正対策・係争サポート）部長等を歴任し、2012年、シニアパートナーを早期退任して、ボルボ・グループで日本の内部監査統括および同グループ会社UDトラックス㈱の監査役に就任。現在も監査役業務の他に藤井範彰公認会計士事務所として監査や不正関連の講演や研修及び執筆活動を続けている。最近の著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」（同文館出版2016年）で2017年度日本内部監査協会青木賞受賞。他にも著書「内部監査の課題解決法20」税務経理協会2012年、論文「内部監査のアシユアランスの本質論」日本内部監査協会月刊監査研究2018年7月号、「内部監査報告書の本質論と実務対応」同2017年5月号等多数。

●プログラム●

■講義／不正対策の制度設計とこれを支える不正対応活動の在り方<14:00-16:30>

大手企業の不正事件が相次いで報道される中、内部統制が整備された大企業でなぜ不正が起こるのかという疑問の声が上がっています。そこで必要となるのは組織の不正対策の制度の在り方をゼロベースで見直し、内部監査をはじめ関連部門の役割や活動の方向を見定めることです。

今回は企業の不正対策の在り方をガバナンス、組織風土、内部統制などを含めて検討した上で、その制度設計（ハード面）に実効性を与えるソフト面の不正対応活動を不正リスク評価、内部監査、不正調査および内部統制レビューの側面から解説します。内部監査としては、組織全体のあるべき不正対策を認識すると共に、活動面では不正リスクにフォーカスした不正監査の方法を整備し、併せて不正調査や不正リスク評価などへの関与にも備え、更には通報制度や事業部門・子会社におけるガバナンスや企業風土を対象とした監査への対応能力も期待されます。

1. 企業の不正対策のポイント

- ・不正リスクとコントロールおよびガバナンスとの関係—マクロとミクロで考える不正対応
- ・企業の不正対策の考え方と実務展開

2. 制度を動かす不正対策活動の実務のポイント

- ・不正リスクの評価の進め方 ・内部監査による不正リスク対応
- ・不正調査、通報対応、不正調査後の内部統制レビュー

■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント<16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 29,000円 本体価格 32,000円〕

*会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認ください。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者のご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951～2

180188	2018 12/13 内部監査実務マスター・コース		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			